令和8年度全国学力・学習状況調査　中標津町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:4校、児童数:152人　中学校数:3校、生徒数:182人

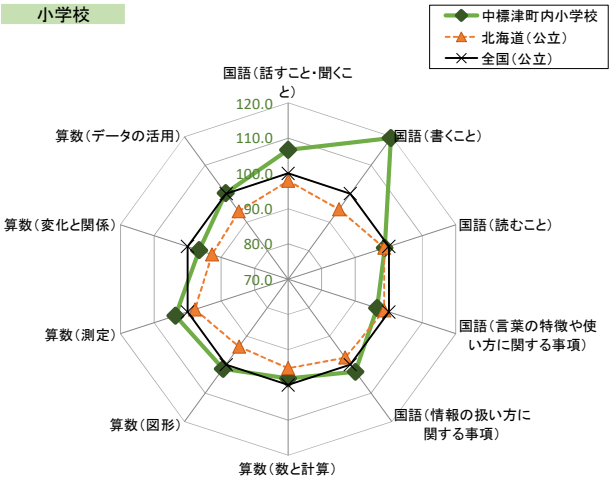
○ 教科に関する調査の状況

【平均正答率・平均IRTスコア】　※中学校英語 は平均IRTスコア

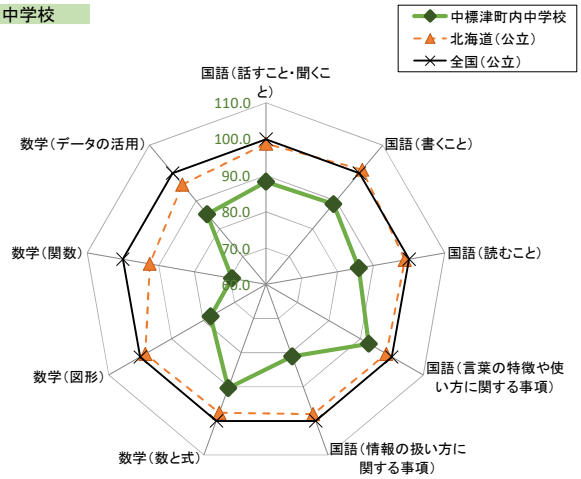
	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
中標津町	63.0	57.0	57.0	47.0	425
北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

【レーダーチャート】
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校

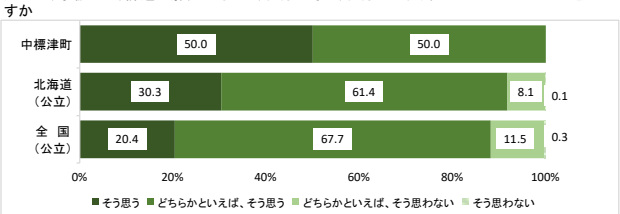


中学校

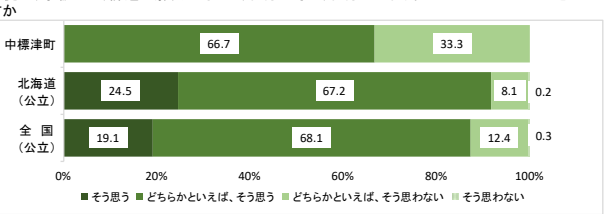


○ 質問調査の状況

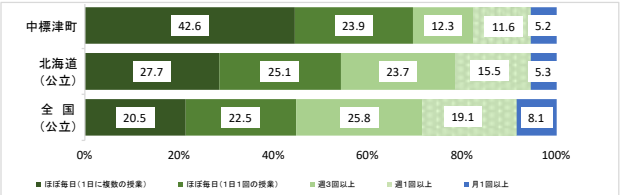
小学校
＜学校質問＞
児童は、学級では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



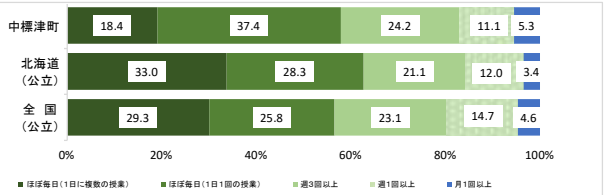
中学校
＜学校質問＞
生徒は、学級では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



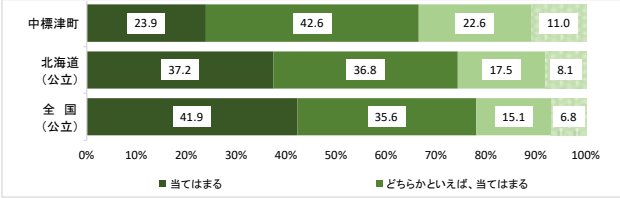
小学校
＜児童質問＞
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



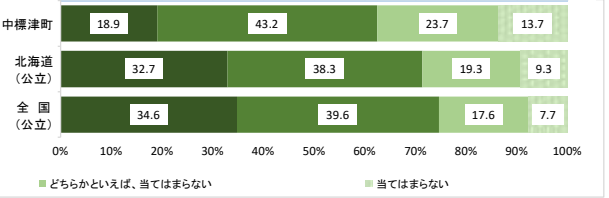
中学校
＜生徒質問＞
1・2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



小学校
＜児童質問＞
算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校
＜生徒質問＞
数学の授業の内容はよく分かりますか



○ 調査結果の分析

成果	小学校において、町が目指す「子ども主体の授業づくり」に向けて、教育委員会と一緒に授業改善に取り組んだことにより、ICT機器をほぼ毎日使用した児童の割合や、小学校国語及び算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
課題	中学校において、全ての教科の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、「課題の解決に向けて、自分で考え、自ら取り組むことができる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
	小学校算数の「数と計算」及び「変化と関係」、中学校数学の全領域において全国の平均正答率を下回っている状況は、「算数・数学の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「中標津町学校改善支援プラン」に基づく「子ども主体の授業」への授業改革の推進
・「各教科の学びを深める・教科の本質に迫る」ICT機器の活用
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導の充実
・「子ども主体の授業」を実践するための安心・安全な学級風土づくり